

審議会会議録

会議名称	第6回伊達市総合計画審議会		
議 題	議事： ・「住民説明会及びパブリックコメントの結果」について ・将来像について		
開催日時	平成30年10月12日 18：30～20：00		
場 所	伊達市役所 本庁舎 2階会議室A・B		
出席委員	渡邊 源之 会長、宇佐美 雅昭 副会長 石井 吉春 委員、掃部 一夫 委員、佐藤 勤 委員、原 義衛 委員、 佐藤 研一 委員、馬場 一憲 委員、日下 守 委員、矢野 勇治 委員、 栗橋 司朗 委員、木谷 明実 委員、山本 國一郎 委員、 四戸 幸穂 委員、小倉 拓 委員、笹山 陽子 委員 (計16名)		
	所管部課名	企画財政部企画課	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者人数	1名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開 会（事務局：企画課長）</p> <p style="padding-left: 40px;">会長挨拶</p> <p>【以降、会長による議事進行】</p> <p>2. 議 事</p> <p>・市民参加結果について</p> <p style="padding-left: 40px;">事務局（企画課長）より説明</p> <p>【質疑・意見交換】</p> <p>■委員</p> <p>一番最後「03. 自立支援と社会参加の促進」のところで、自立という言葉の扱いはすごく難しい。この施策では、自らの決定に基づいて積極的に地域社会に参加できるように支援を進めるということだが、自ら主体的に決定して、主体的に動くことに対しては支援のしようがないかもしれない。</p> <p>言葉尻の話だが、何をするのがよくわからない気がした。</p> <p>ここでいう自立とは、それを目指すのであって、自立しろと言っているわけではない。しかしこの文章では、自ら決定できない人たちを支えるということになる。自らの決定を主体的にできるよう支援するということは、それができない人だと言っているのと同じ話になるので、</p>			

かえって変な文脈になっているのではないか。

●事務局

平成17年に障害者自立支援法ができ、今は障害者総合支援法に名称が変更している。自立という表現が、障がいのある方を支援するという意味では問題があるのではないかという議論があったため、名称が変更したという経緯がある。

ただ、この資料における自立についての文章では、障がい者だけではなく、経済的な支援を必要とされる方も入っているため、障がい者に配慮し、自立という表現は変える方向で検討している。

■委員

自らの決定なので、ほかの人は関係なく、自分で決定しているということである。それについては支援の必要がない。主体的に社会に参加できていないということが前提になるので、それであれば何を支援するのか。

自立という言葉を使いたくないとしても、自立という概念に近い内容を盛り込んだらいいのではないか。自ら決定できない人がいるから決定することを支援するのだし、主体的に行動できない人がいるから主体的に行動することを支援するということになる。しかし、それは逆に、障がい者や経済的弱者に対して失礼なことになってしまうのではないか。

■会長

健常者はいいとしても、障がい者の方たちがどういうふうに思うかが重要ではないか。

■委員

自らの決定に基づき、主体的に行動することができるような社会をつくるならいいが、支援をするとあるため、違和感を覚える。

●事務局

法律上、自立という言葉自体がなくなり、別な表現に変わっているということもあるため、それに対して配慮したいと考えている。

■委員

自立できない者を自立させるのかという反対論があるのか。

●事務局

そのとおりである。表現として、これまでは自立支援法の中で自立とうたっていたものが、基本的人権を有する個人としての尊厳を大事にするという方針に変わったというのが法の趣旨である。

■委員

尊厳を大事にするということと、なにを目指すのかというのは全く関係ない話なので、自立と言っても尊厳を否定したということにはならない。

■委員

パブリックコメントの回答を見ると、原案にこの点に関する意見を反映するとあり、意見を出された方の了解も得ているとある。総合計画の下位計画である障がい者の計画の中では、自立という表現は使わないで、既に別な表現にしているのだから、上位計画に当たる総合計画もそれと同じような表現にしないと整合がとれないという意見に対して、修正すると回答しているようだ。

■委員

前に見たときには違和感は全くなかった。文章でつなげたら変だと感じる。

自立にこだわっているから、その延長上で「自らの決定に基づき」と入れたような気がするが、「主体的に」だけだったら全く変ではない。

■委員

意見を出した人に説明して、了解を得ているから、それを変わるとなったら、また説明し直さなければいけないのではないか。

●事務局

説明のし直しなど、事務局で対応することは全く問題ない。

■委員

日本語の問題なので、絶対的にどうこうというよりは、日本語としてどっちがいいかだけの話である。

■委員

矛盾がないように調整すればいいのではないか。

●事務局

調整する。

■委員

計画素案の71ページに関して、公共交通網の確立ということで、必要な取組②のライフモビリティサービスの充実というところで、会員制乗り合いタクシー（予約制）の充実により、ドア・ツー・ドアの移送サービス云々と書いてある。

これについて、住民説明会で市長は、現在実施されている乗り合いタクシー制度はもう行き詰っている、利用者も増えず、いろいろな問題があると発言していた。タクシー会社側の利益も運転手の利益も上がっておらず、運転手は完全歩合制のためにむしろ収入が減っている。利用する側も、乗り合い率を上げるために、キャンセルはできないとか、無理して遠回りして別のお客さんを乗せるなどで、サービスが非常に悪く感じている。また、運転手さんもデメリットが多い。ということで、これは見直しをしなければいけないと市長は言っている。

それに対し、この素案の中では「充実により」ということで、このまま行くのでいいという表現になっている。これは、タクシー制度の改善や、中身の検討など、表現を変えるべきではないか。

市民の意見としては、スクールバスは朝と夕方だけ動いており、昼間は動いていないので、そういうバスを活用すべきではないかとか、民間の従業員の送迎バスとか、農協の出面さんの送迎バスとか、そういうものを活用できないかというものがあったようだ。

●事務局

乗り合いタクシーの運行に関しては、今の運行の契約が今年度いっぱいとなっており、現在、事業者と担当課で来年度以降の運行について協議を行っているところである。その内容は、計画が確定する前には方向性が定まると考えているので、その協議の結果を見ながら、この表現については修正の可能性もあると認識いただきたい。

スクールバスや民間事業所の送迎バスの活用に関しては、現在、調査をしている。市内の公共交通でバス以外にどういう移動手段があるか、別なものを市民の足として使う方法はないのかということもあわせて調査をしている最中である。その結果が出て、将来的な公共交通のあり方全体を含めて検討を進めていきたいと考えている。

■委員

洞爺湖町の洞爺温泉病院から製鉄記念室蘭病院の間のシャトルバスが無料で走っている。それは、患者さんはもちろん、一般の人でも自由に利用でき、伊達でも日赤病院やその他、停まる

場所が何カ所もある。

こうした実例もあるので、それも含めて研究していけば、いい方法が見つかるかもしれない。

■委員

先ほど、パブリックコメントに基づく修正箇所について説明があったが、住民説明会でも、具体的な要望や質問が多かったと思う。その中には素案などに反映するものはなかったということではよろしいか。

●事務局

今回の基本構想、計画の内容については、変更箇所はないということで整理している。住民説明会は各地区で開催して、個別の課題など具体的にやるべきことが挙げられてきたので、そういった項目は、実施計画の中で、実際の事業の中で取り入れていく方向で考えている。

・将来像について

事務局（企画課長）より説明

【質疑・意見交換】

■委員

前回の会議の後に、パブリックコメント並びに住民説明会の結果をもとに素案が一部修正されている。「すべての市民」がというところが「みんな」という表現に変わっていて、これは非常にいいことだと思う。

その中で私が危惧するのは、将来にわたっての人口減少は避けられないという中で、伊達市における活路としては、道の駅「だて歴史の杜」に年間150万人以上の人を訪れている。伊達市の発展のためには、伊達市民だけではなく、150万人以上の来訪者、また、いろいろなイベントに来られる方や、近隣の3町から総合病院に来院される方、伊達の大型スーパーにお買い物に来られる方など、伊達を訪れていただいた人に伊達はいいまちだと感じてもらえるまちづくりが重要である。また、人口減を補うための試みとしては、短期、中期の滞在人口もポイントになる。体験滞在や体験居住、農業体験、その他、自然探索などいろいろあるが、滞在人口に対するおもてなしを心がけて、その人たちも満足をしていただく、幸福度を感じていただくことが非常に大事だと思う。

市民幸福度最高のまちというのは、市民にとっては非常にうれしいことで、ありがたいことで、すばらしいことだが、市民だけが幸福だったらいいのか。やはり、来ていただいた方にも幸福を感じてもらい、満足をしてもらうことが大切かと思う。

その視点から、最後のところに「市民」という言葉が入ると、やや意地の悪い見方をすれば、伊達は市民優先で、市民の幸福を優先して、市を訪れた人のことは余り考えてくれないのかという邪推をされるのが心配である。これは、対外的に、他の市町村、道や国にもキャッチフレーズとして公開する。PRのスローガンにするということからいくと、誤解や邪推をされないような表現にしたほうがいいと思う。そのためには、「市民」という言葉をとってしまうか、あるいは、それにかわる別な文言を入れるという工夫をしたほうがいいと思う。

事務局の手中にも、道内35の市の将来像の一覧表がある。まちをPRする上で、キャッチフレーズは必要だと思う。市民が心をつなげていく上でのよりどころにもなる。これは、10年後においても、どこに出しても恥ずかしくないような表現にしなければいけないと思う。

この将来像には、パブコメでも、住民説明会でも、ほとんどの人が肯定的な意見を出している。市民側から見れば非常にすばらしいことだが、果たして対外的に恥ずかしくないものかどうかということは少し考える必要があると思う。

■委員

伊達市の総合計画なので、当然、市民に向けた文言が入るべきだと思う。

他市町村のことについては、これは伊達市の総合計画なので、先の委員が言うようなアピールは余り必要ないのではないかな。

■委員

前段は「みんな」になり、後段では「市民幸福度」と言っている。要するに、伊達市の計画なので、もともと全道民の幸福度を定義しているわけではなく、モノサシも、住み続けたい人が言っているので、誰が見ても市の計画だということは誤解しないと思う。

ただ、前は「市民」が2回も出ていたが、どっちにしても市民が主語なのだから、わざわざ「市民」という言葉を重ねることはないと思う。「市民」という言葉を抜いたほうがシンプルで美しいと思う。「市民」と入っていると、印象として固い。「市民」を抜いたほうが、随分すっきりしたキャッチフレーズになるのではないかな。

絶対に「市民」を抜けという意見ではない。

■委員

私も言葉足らずだったが、これは市民のためにつくる計画なので、「市民」とうたう必要はない。市民のためにつくっていることはみんなわかっている。

■委員

3万4,000人の市民がどういうとり方をするか。「市民」がなくなったら、何で「市民」を入れなかったのかと言われることもあるのではないかな。

■委員

みらい会議では長時間かけて議論を尽くされたと思うが、参加された方からご意見を伺ったらどうか。

■委員

幸福度ということのアピール度が高かったと理解している。

■委員

私は「市民」という言葉が邪魔ではないと思う。かえって、単に「幸福度」というよりも、「市民幸福度」のほうがわかりやすいのではないかなと思う。私は、市民幸福最高のまちというのが語呂もいいのではないかなと思う。これは市民のための計画だから、わかり切っていることだから除けという考え方には賛成できない。

「すべての市民」が「みんな」になったのは、大変良かったと思う。

●事務局

議論としては、「市民」をつけるか、つけないかという方向に進んでいるが、そもそもこの方向で進むこと自体に対して委員の皆さんはどう思われているのか。

■委員

幸福度の話は余り異論がないのではないかな。

幸福度ということをポジティブに捉えている人が多いのだったら、それはあっていいと思う。むしろ、説明なりをしっかりとしていけばいいと思う。

■委員

結果的には、「市民」を削除するか、そのままにするかの問題である。これは、多数決というわけにはいかないだろう。

■委員

中身が変わる話ではなく、語彙の話なので、絶対にどっちでなければ困るということではなく、ただ、語感を受けとめる方によって大分違ってくるので、説明も重要になってくるのではないか。

■委員

幸福度最高を目指すというのは、私もいいと思う。市職員にとってはすごくプレッシャーになると思うが、それを目指さなければいけないのではないか。それがうまくいかなかったらバッシングになる。

●事務局

検討していく。

■委員

素案41ページに、幸福度のモノサシということで、2本のモノサシが示されている。一つは、総合的指標として、「将来も伊達市に住み続けたいと思う人」の割合というモノサシである。現在は77.1%で、これをこの先3～5年ごとにはかってみて、何%まで持っていくという数値目標などは示されていたか。

●事務局

数値目標は設定せず、上昇させるとしている。

■委員

もう一つのモノサシとして、健康維持に関する取組の満足度が挙げられているが、この文言だと、体の健康だけだと感じる。下のほうに心身の健康に関することとしっかり書いてあるが、健康維持に関する云々という表現だと、病院や本当の体の健康だけになると思うので、伊達市の文化度など、健康度とは言わない用語も含めてもいいのではないか。

指標区分の健康な暮らしというところは、「心身の健康な暮らし」というように、せめて「心身」とつけてみてはどうか。単に体の健康だけではなく、精神的な、文化的な健康度もモノサシにあるのだという説明を入れたらどうかと思う。

■委員

「心と体」という文言を入れるなど、何か加えてもいいとは思う。

■委員

総合的指標と、もう一つは健康な暮らしと書いてあるが、この書き方に少し違和感を覚える。

■委員

並ばない言葉ではないか。

■委員

豊かさを代表するのが「健康」で、幸せを代表するのが「住み続けたい」だから、並列の指標設定だという整理だけでいいのではないか。これは、どっちも区分は要らないと思う。並列で並べておくと、余り違和感がなくおさまるのではないか。

■委員

指標の内容の表現は大事にしたほうがいいと思う。

■委員

区分のところだけは、無くしていいと思う。並列で問題ない。

●事務局

指標区分があることで、難しくなっているのかもしれない。修正を検討する。

■委員

指標をいろいろ議論して、いっぱい並べるのが一番悪いパターンなので、少しカバレッジが低くても、わかりやすい代表指標を少なく設定しないと、後で評価できなくなってしまう。

■委員

モノサシについて、77%や59.9%と現在値が出ているが、その向上を目指しますと書いてあるだけで、目標値は出ないのか。

何においても、75%までとか、80%までとか、必ず目指すところを掲げてから動く。ここは、最新の状況が77%で、それより上を目指すのだが、どこまで目指すのかという数字が無くていいのか。

●事務局

内部でもさまざまな議論をしているが、目標を設定することはできたとしても、その根拠が何かを設定するのは難しい。例えば、市民幸福度最高のまちとなれば、将来も伊達に住み続けたいと思う人が100%というのが目標設定になるだろうというご意見もいただいたが、100%に設定するのは難しいと考えている。

同じように、素案の49ページから51ページの重点施策の中でも目標数値を設定しているが、この中でも、根拠を明確にして目標値を設定できるものは数値として表すことにし、それ以外のところは、根拠づけが難しいため、上昇を目指すという形をとった。

■委員

幸福度最高という表現を使う以上、77.1%が1ポイント上がって78.1%ではだめだろう。90%と言っても、どうすれば90%になるかという説明ができないので、悩ましいところである。

■委員

この指標は、住みたくない人がみんな出ていったら高くなる。

■委員

確かにそうだが、それは極論である。

■委員

本当に90%が理想なのかという問題もある。だから、高まること自体は全く問題ないと思うが、どこまで高めなくてはいけないという話になり、では、実現するために何をするのかという話になると、今のような極端な話が出てくるので、目標ありきではない類いの指標というふうに理解したほうがいいと思う。

例えば、健康度に関しても、一般的にはこれから超高齢化社会がさらに進んで、心身とは言いつつも、体の健康度は相対的にどんどん悪くなる現実がある。それでも、トータルとしてこの指標をもっと上げようということなので、結構ハードルが高い側面があり、どちらかだけの目標を立てて、片方は立てないというのもバランスがとれなくなる。そのため、ここは頑張るという定性的な話をする以外は難しいと思う。

数値を上げるのが難しいものをきちんと目標にしているので、上げる努力をするということがそれなりのインセンティブにはなると思う。

■委員

将来も住み続けたい人の割合、健康維持に関する取り組みの満足度、これは少し違う要素があるが、いずれも上昇すれば、ほぼ幸福度が高まっているのではないかと達成したのではないかと認識できると思う。ただ、どちらかが下回ったら、これはダメになってしまう。そういう共通認識でもいいのではないかと。

■委員

おっしゃるとおりだと思う。どう考えても並列の二つの目標である。

■委員

二つともできれば、よくやったと評価していいと思う。

ただ、住民説明会の中でも、高齢化して長生きしている人はどこにも行けなくて住み続けることになるから、将来も伊達に住み続けたいと思う人の割合は確実に上がるだろうという意見があった。

■委員

向上を目指すということでもいいと思う。スタートの年度は77.1%と59.9%、これが5年後、10年後に上昇すれば、幸福度が高まったと捉えてもいいと思う。

心の健康について、伊達のカルチャーセンターの催しや、コスモスホールでの音楽イベントなど、文化的な催しには室蘭からも人が来ている。室蘭の友人からは、伊達のグルメ街道など、伊達にも結構おいしいお店がある、あそこに行ったことがあるのかと聞かれることもある。そういう話を聞いて、伊達市の文化面の素地は室蘭市より高いと感じた。そういう面からも、伊達市は住みやすくて、いいまちだとみんな感じているのではないかとし、市外の人もそう思っているのではないかと。伊達市のまちづくりは、今ある住みやすい環境をより良くしていくように、市民みんなで力を合わせて知恵を出していくことが大事だと思う。

モノサシには、身体の健康ばかりではなく、こうした文化面のレベルアップもぜひ入れてもらえたらと思う。

■会長

最近の新聞では、各地のいろいろなものが掲載されていて、よくPRしているが、伊達市のものは少ない。室蘭、苫小牧、函館方面といろいろなものが出ていたが、そうしたPRによって、住みやすいまちだとか、お客さんがたくさん来るところだということを知ってもらえると思う。

■委員

伊達市の発信は、ほかと比べたら圧倒的に多いと思う。一方で、良い情報を流すということが重要である。

■会長

情報媒体を上手に使うことが大事だと理解した。

■委員

将来像の市民幸福度最高のまちということで、私は、みらい会議のBグループで、10年後の伊達市の目指す姿として、市民満足度の高いまちというのを提案して、発表させていただいた。そして、住民説明会のときにも、同じメンバーの方が来て、非常に嬉しいといった発言をしていた。

今日の資料にもあったが、将来像については、言葉にメッセージ性やインパクトがあるということが大事だと思う。現計画の「自然をはぐくみ」という言葉もすばらしいものだったと思うが、それから10年がたった今、伊達市の置かれている状況が違うので、やはり、メッセージ性が強くて、伊達市はこうなのだということを強く打ち出せるものがないと思う。日本語の

話は別として、私たちのグループが出したのは満足度の高いまちというものだったが、満足度より幸福度が最高のまちというほうがメッセージ性やインパクトが強いと個人的には思う。

また、モノサシのところ、正直に言えば、向上を目指しますではなく、やっぱり100%が一番いいと思う。どの指標も100%がいいと思うが、いろいろな都合もあると思う。課題を考えて、それを達成するとまた次の課題が見えてくるというものだと思うので、100%と書けないのであれば、具体的に80%といった数字を書かなくても、向上を目指しますがいいと思う。住民説明会の際にも言っていたが、市民幸福度最高のまちというのは、心の豊かさなのか、何の豊かさなのか、それは求める人それぞれで違うと思うが、これから10年の間で市民一人一人が自分たちで感じていければいいかと思う。

■委員

先ほど、指標のところに健康の維持だけではなく、心身の健康という要素を含めたいのではないかという話があった。素案の23ページに、④伊達市民が考える豊かさというものがある。その中に、心身の健康という項目があり、61%になっている。この項目は、体の健康と心の面、文化の面、豊かさの面を包含しているとなると、この数値のほうが、指標の部分に書いてある説明と一致するのではないか。

アンケートでは、伊達市民が考える豊かさとして、自然環境、快適な暮らし、そして3番目に心身の健康ということで61%になっている。

素案の23ページにも出ているが、59.9%という健康維持に関する取り組みの指標がここには記載されていない。そのため、このアンケート結果のグラフから数字を持ってくるのがいいのではないか。

●事務局

23ページに心身の健康が61.0%と書いているが、どういう指標を豊かさとして考えるかという質問である。実際に指標として設定している健康維持に関する取り組みの満足度は、現状でそうした取り組みに対して満足しているかどうかという聞き方をしているので、この二つは性質が違う。

心身の健康のための取り組みに対する満足度というアンケートの結果があれば、その結果をここに当てはめると合うと思う。満足度に関して、そうした質問の仕方をしていなかったのも、心身の健康となると一つで表現できる指標が現段階ではない。

■委員

59.9%というのは、どこにあるのか。

●事務局

この素案の中にはない。

■委員

アンケートの結果のみということか。

●事務局

そうである。

■委員

何ページに載っているのか。

●事務局

市民アンケート調査というタイトルの表の2枚目である。1-(2)福祉、市民生活についての満足度という項目のアンケート結果である。その1番の健康維持に対する取り組みの「満

足」と「やや満足」の合計が59.9%ということである。

アンケートの結果については、最終的には資料編での掲載を予定している。

3. 閉 会

【会長より閉会挨拶】

【事務連絡】

- ・第7回審議会は10月22日（月）を予定

第6回 伊達市総合計画審議会

- 日 時 平成30年10月12日(金)
18時30分から
- 場 所 伊達市役所 本庁舎2階会議室A B

■ 会議次第

- 1 開 会
- 2 議 題
 - ・ 住民説明会及びパブリックコメントの結果について
 - ・ 将来像について
- 3 閉 会